

# 令和2年 9月「月報」(案)

## 1 はじめに

新型コロナウイルス感染拡大、梅雨前線の線状降水帯による7月豪雨災害、8月の猛暑に伴う熱中症被害、9月以降に予想される台風災害、そして不意急襲の大規模地震と「日本は災害大国」と言われる所以であります。

災害が起こるたびに、自衛隊は出動し被災者に寄り添う献身的な活動を行い、「自衛隊がいるから助かる」と被災者や被災自治体から感謝されます。一方で、今回の7月豪雨被災地での災害廃棄物処理まで自衛隊が行う必要があるのか、自衛隊は便利屋ではない。との巷間の意見もあります。

そのような中、8月7日(金)、河野防衛大臣は、防衛省と環境省が共同で初の「災害廃棄物の撤去等に係る連携対応マニュアル」を作成したと発表しました。

同マニュアルは、災害廃棄物の撤去等に関し、防衛省・自衛隊、環境省、自治体、ボランティア、NPO法人などの関係について、①役割分担、②平時の取組、③発災時の対応、④自衛隊の活動終了に伴う対応などについて整理しています。

この中で、「災害廃棄物の処理主体はあくまでも市町村であり、市町村が民間事業者等と連携しつつ処理体制を構築することが前提である。その上で、市町村が対応できず住民の生活環境保全上の支障が生ずる場合に、災害派遣活動に従事している自衛隊と連携して対応に当たるものとし、民間事業者等への移行までの応急対策を原則とする」としています。

今回の熊本県等の被災地では、高齢者宅が多くかつ復旧支援のボランティアもコロナの影響で県内在住者に限定される等の理由で、自治体も自衛隊に頼らざるを得ない事情があり、活動する自衛隊指揮官にも忸怩たる思いがあったと推測されます。

今回のマニュアルが、自衛隊の災害派遣について「最大限の態勢で初動に当たる一方、出口を明確化」したことにより、今後の災害派遣活動の円滑化に寄与するとともに、派遣の長期化になりがちな自衛隊の負担軽減にもつながると思います。

## 2 防衛省・自衛隊の活動

### (1) 新型コロナウイルス感染症に対する市中感染対応に係る災害派遣

8月18日(火)から31日(月)の間、第15旅団及び那覇病院の看護官等約20名が、更に8月22日(土)から31日(月)の間、西部方面隊の看護官10名が、それぞれ沖縄県知事の要請に基づき、同県内の医療機関においてそれぞれ医療支援(患者等に対する看護活動等)を実施しました。

(15旅団広報より)



(15旅団広報より)



受け入れ準備を行う災害派遣隊員 患者の体位変換（床擦れ防止）を行う隊員

## (2) 多国籍部隊・監視団 第1次司令部要員帰国

7月〇日、エジプト、イスラエル間の停戦監視などを担う国際機関「多国籍部隊・監視団（MFO）」司令部（エジプト・シャルムエルシェイク）に派遣されていた桑原直人1等陸佐と若杉貴史1等陸尉が、約1年2カ月間の任務を完遂し帰国しました。

7月28日、防衛省で岩田政務官に帰国報告を行いました。また、29日には、菅官房長官にも帰国挨拶を行いました。

MFOは、1982年からエジプト・シナイ半島で平和維持活動を行っており、防衛省は、国連が統括しない「国際連携平和安全活動」に従事する初のケースとして昨年4月から二人を派遣し、現地司令部で連絡調整などに当たっていました。

現在は、6月15日から2次司令部要員の深山正仁2等陸佐と竹田津佑介3等陸尉が任務遂行中です。



岩田防衛大臣政務官に帰国報告



記念撮影の桑原1佐と若杉1尉

## (3) 国連活動支援局へ初の衛生官要員を派遣

8月7日(金)、国連本部活動支援局（米国ニューヨーク）へ衛生官要員として派遣される川崎真知子2等陸佐（薬剤官、衛生科）は、湯浅陸上幕僚長へ出国報告を行いました。

川崎2佐は、国連本部活動支援局特別活動部パートナーシップ支援課において、国連三角パートナーシップ・プロジェクト（TPP：Triangular Partnership Project）の枠組みで実施されている国連野外衛生救護補助員コース（UNFMAC:the United Nations Field Medical Assistant Course）の企画・実施などの業務に携わる予定です。



湯浅陸幕長へ出発報告する川崎2佐

## 3 家族会の活動

### (1) 中東地域における情報収集活動派遣水上部隊への慰問・激励（神奈川県家族会）

8月19日（水）、小松神奈川県会長は、中東地域における日本関係船舶の安全確保に必要な情報収集活動のために、8月30日から派遣される海自第1護衛隊司令部（横

須賀基地)を訪問し、本会からの慰問・激励を担当しました。

当日は、小松会長から第1護衛隊司令(平井克英 1等海佐)に慰問・激励品(栄養ドリンク50本入り15箱の目録)を贈呈し、任務完遂と無事の帰国をお祈りしました。

8月30日(日)、平井第1護衛隊司令及び護衛艦「むらさめ」(艦長野本2等海佐)は、山村海幕長らの見送りを受け出航しました。

「むらさめ」は、約2週間、日本近海でコロナ感染者がないことを確認後中東へ向かいます。



平本第1護衛隊司令に激励品を贈呈

## (2) 令和2年7月豪被災地でのボランティア活動(渡邊大分県会員)

7月7日(火)、集中豪雨により大分県日田市を流れる筑後川支流の玖珠川が氾濫し、同市天瀬町は床上浸水等の被害が発生しました。この復旧活動のため、12日に日田市災害ボランティアセンターが設置されました。

7月28日(火)から8月1日(土)の5日間、渡邊勝寿大分県会員は、この災害ボランティア活動に参加しました。

同会員は、これまでも東日本大震災の福島原発事故の除染作業をはじめ、大分県内の洪水被害地にも積極的に参加するなど、日頃から「自身のできることは後悔をすることのないように行動しよう」という信念をもって生活しており、今回も必然的に行動し、家財の片付けやゴミの搬出、土砂の撤去に携わりました。

今回の活動において、TVでたびたび紹介されたスーパーボランティアとして有名な尾畠春夫さんと共に行動し交流を深め、ボランティア活動の必要性を再認識したそうです。

大分県家族会(江藤勝彦会長)は、渡邊会員の今回の活動を家族支援要領の参考にすることとしています。



床上浸水被害の土砂の撤去



尾畠春夫さん(右)と渡邊会員